





俺は内田徹人（うちだてつと）、38歳。  
10年前に工場の仕事をクビになってから  
今までずっとフリーターをしている

昔から人…特に女と話すのが苦手で、目を合わすことができない。  
そのせいなのかこの歳になっても未だ童貞で、彼女もできなかったこともない…

だからだろうか、俺は一方的に  
想いの全てをブチまけられる  
アイドルに猛烈にハマっている。  
いわゆるアイドルオタクというやつだ

今日はバイト中に同僚の女子大生に  
理不尽にキレられて・・・怒鳴られて・・・  
俺は悪くないのに、クソがッ!!

帰ったらあいつをオカズにシメコでやる。。。。



とぼとぼ<sup>〇〇〇</sup>

その日の帰り道は、  
たまたまいつもと違う  
人気の少ない道を選んだ……

その何気ない選択が  
俺のその後の人生を大きく変えることになる——





「……は……お……ら……ま……じ……」

赤い



「あれって……「PPP」の……瀬志希ちゃん……びやねえか……？  
……すげえ本物だ……めっちゃ絵になる……可愛い……可愛い……」

(二人瀬志希ほどの大人気アイドルがこんな暗い夜道を二人で歩くか……？人違い……？)



ドクニド

ドクニド

ドクニド

ドクニド

(いや、あれはどう見ても何度もDVDで見た二人瀬志希本人！)



「ん〜?」

「さ、さ、瀬志希さんですすよねのね  
ファンですかーあ、握手していただけますかー」

「……へえ、あたしのファンなんだあ」

「ほ、ほはっ！ライブのDVDも何度も見ました！  
CDも全部、特典版で持ってますっ！！」

「すっ！……っ！！はっ！でっ！！んんんん  
マジで可愛すぎるっ！……  
バ先の女子大生なんてこれに比べたらブス過ぎるっ！！  
結婚してえっ……肉田志希か……ひひっ」



「あっそう、じゃ〜ね〜」

「……!!」

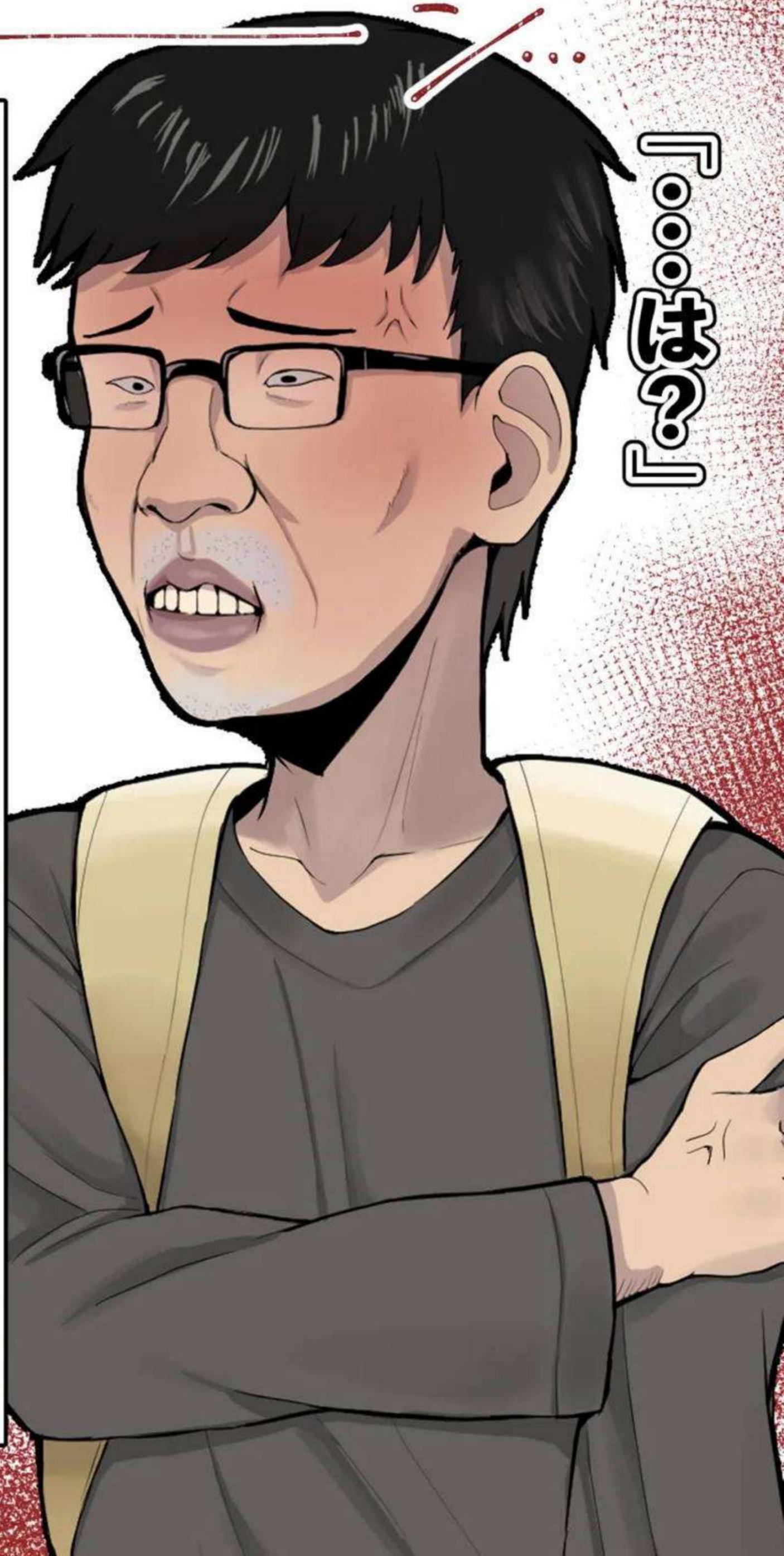
「あ、あ、あの握手は!?!」

「志希ちゃんキミの匂い全然好きじゃないから嫌」

ブツ

「……は？」

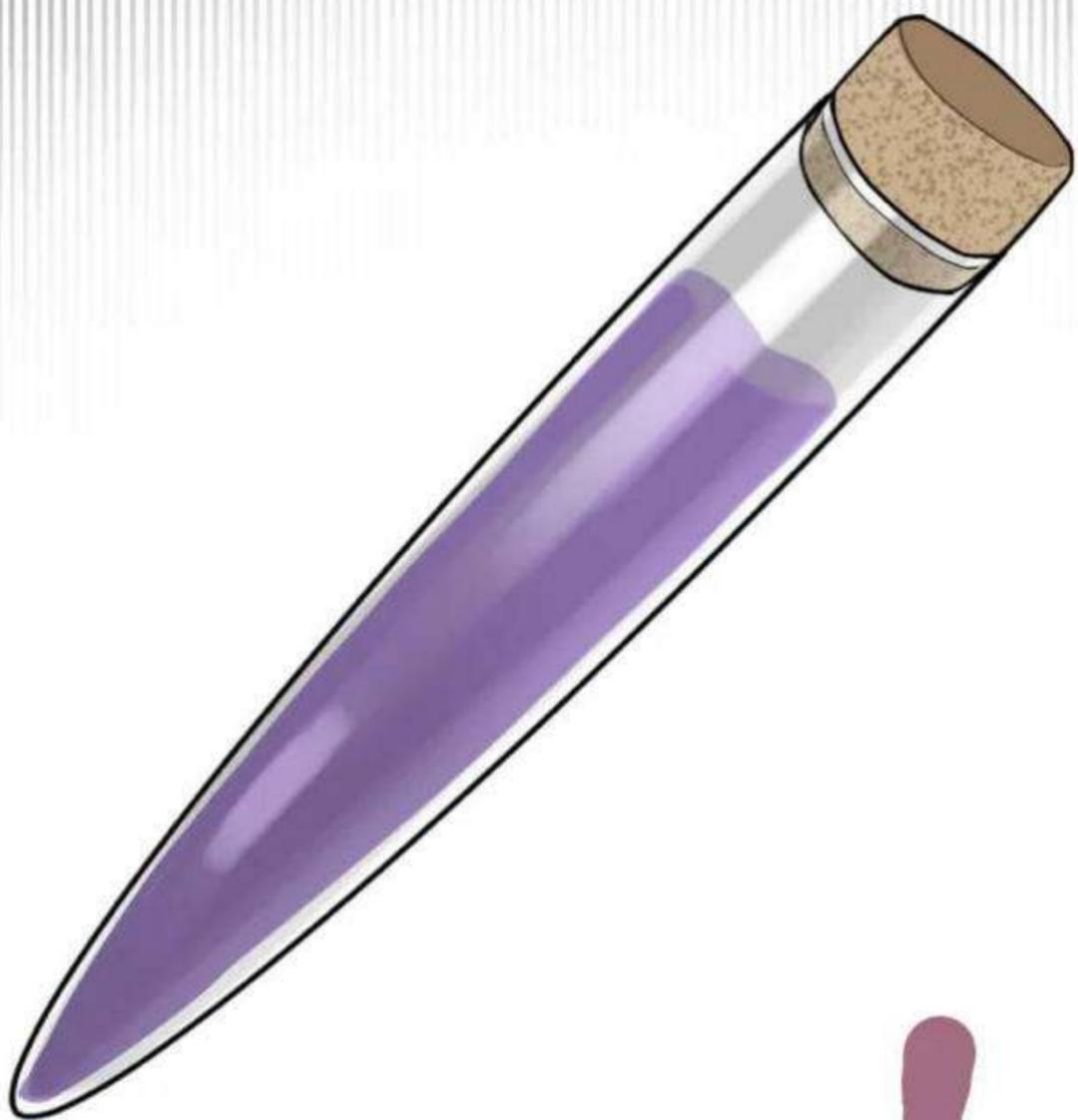
思い出した、俺が女と話すのが苦手になったきっかけ……  
学生時代、好きになった女に「臭いから近づかないで」と、  
そう言われたんだ。  
それから俺は人と目を合わせるのも  
距離を縮めることもできなくなった……



「ズザッ。けんなツ!!」



一ノ瀬志希の態度と言動にカッとした俺は、彼女の手を思い切り引っ張ると、反動で彼女のスカートのポケットの中から何か試験管のようなものが落ちた。

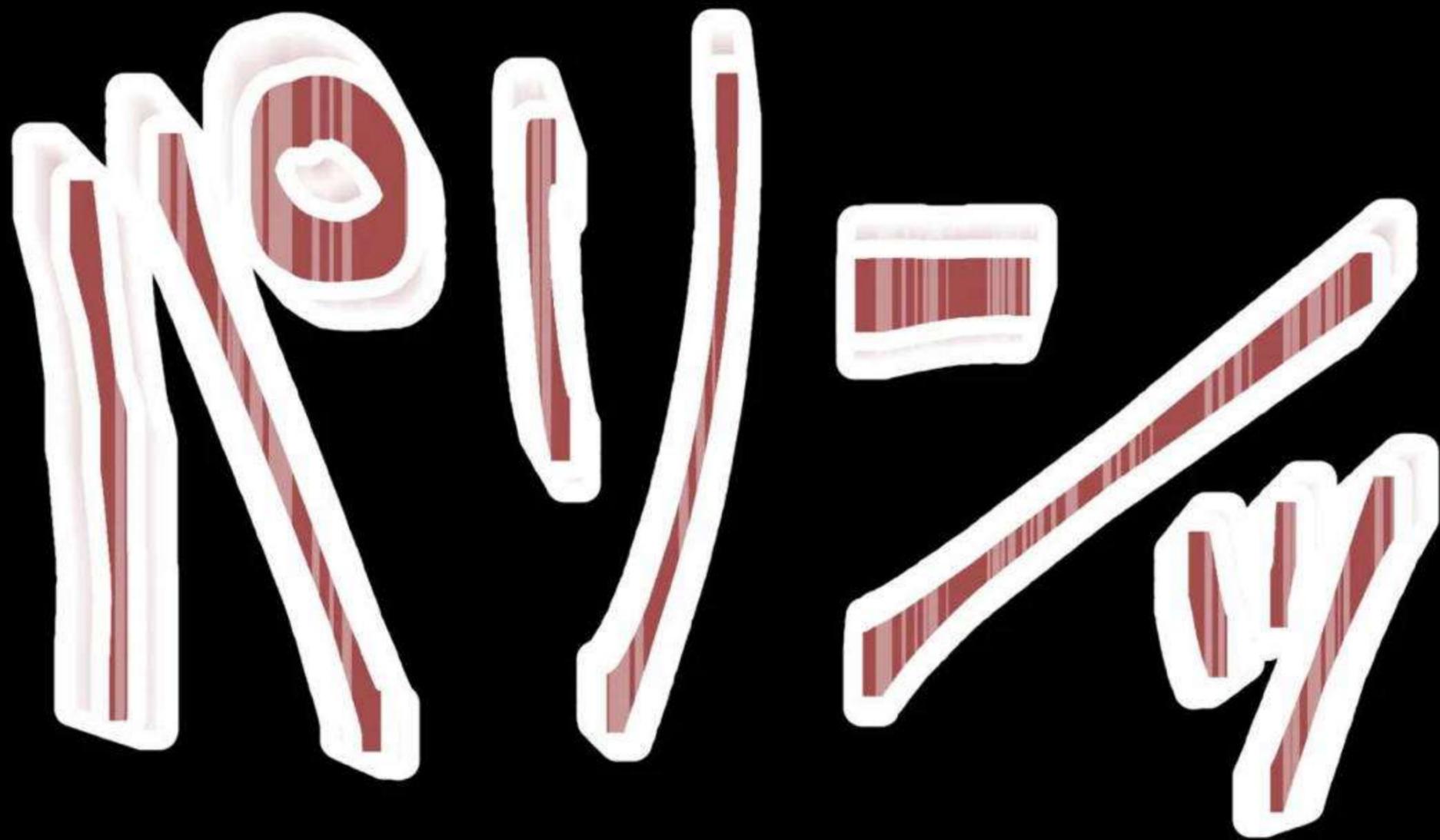


人

ホ

「あっ、ちよ！」

「これ実験に必要なものだった」



彼女はそれを空中で掴もうとしたが  
間に合わず地面に落ち、割れてしまった

『ゴゴゴ』

なんだこの刺激臭。。。。

なんの薬品かは分からないが、臭いだけで危険なものであることは理解した。



一ノ瀬志希は意識を失い倒れていた。  
散乱した薬品を至近距離で嗅いだからだろうか

「お、おら……。死んでないよな……。」「……」

（まず……。このままじゃ俺が襲ったみたいじゃないか。……）

ドクーン

ドクーン

気が動転した俺はなんでこんな行動を取ったのか分からないが、  
気を失った一ノ瀬志希をおぶって自分のアパートまで連れ帰った

冷静であれば救急車を呼ぶ場面だが、  
今にして思えばここでこの女を  
ウチに持ち帰ったのは正解だった……♪

「呼吸はしてる。。。生きてはいるな。。。  
背中。。。おっぱいが当たってる。。。らるる。。。」

幸い現場から俺のアパートまでの距離はそう遠くなく、  
非力な俺でもギリギリおぶって行けた。  
とはいえ気を失った人間一人、アイドルとはいえかなり重かったが

『どりあえず俺の布団に寝かせて♪ムゥムゥ』

さっ

ど







す……すげえ……すげえ……  
いつも画面越しで見てもオカズにしてた  
激カワ現役JKアイドル……  
それが俺の臭い布団の上で無防備に寝てる……

ゴ

「……」

ク……

見抜きくらいなら……  
大丈夫……寝てるし……

ハア

ハア

ハア

ハア

ズ

!!!

「!!!!!!」



「や、やっぱは見てるだけじゃ  
我慢できねえ!!」

「い、いよいよな!?! 起きないし...  
俺にだって少しくらい  
いらんところがあるていらんはずだッ!!」

ハッ

ハッ

「す……あ……っ  
こ、これが女のまんこ……♡  
しかも一ノ瀬志希の……  
アイドルJKまんこ……♡♡」

「ズンツ越しても柔らかくて  
あつたかい……すげえ……♡  
う……う……あ……あ……  
ファンやつてるだけじゃ  
一生見れなかつた一ノ瀬志希の  
スカートの下……そこに俺の手が入って……♡♡」

ぐに

ハッ

ぐに

ハッ







「oooooooooo?」

わ...あ

じ

「ズッ……これ……濡れ……」

「女が興奮した時のやつ……  
だよな……?」



フッ

（こノ瀬志希が  
俺で興奮してゐる……  
いける……のか……？）

フッ

（俺も男としてやゝある……のか……？）

グッ  
クッ……  
フッ

フッ





「コスプレが女の……それも現役JK……  
現役アイドルの……身体……」

「す、すご……」

ぐんぐん

水着グラビアで見たことはあつたけど生で見るとこんなに……」

「そわそわしてても服を脱がせても  
起きねえなんです。」

『ooooooooo』



ニギハヤヒ

ツ

ツ

ニギハヤヒ

...ニギハヤヒ...

ツ

ツ

ニギハヤヒ

ニギハヤヒ...

ふおおおおおおおお！！！！

がるんっ

（現役アイドルの。。。何度も妄想でミロっできた天才！一ノ瀬志希の生おっぱい。。。ツッ！！す、すげえ。。。AVで見えてきたおっぱいとは次元が違え。。。デカいし綺麗だし乳首もまっピンクで。。。見てるだけで射精しそうだあ。。。）

（それにしてもブラジャーを外すときに相当体動かしちまっただけでまだ起きねえぞ。。。これもう何しても起きねえんじや。。。）





最

○○○○○○○○○○

シクシク

シクシク

いゅん

いゅん

もみゅ

もみゅ

高だめ

○○○○○○○○○○  
(♡)

このわががあの二人瀬志希の生おっぱいばらばら。。。。  
やわらか過ぎで指が埋まりすぎて。。。。

あ。。。。

パチ。。。。

ん。。。。？

ぴち

ぴち

ん。

おぬ

それに脇も。。。。なんだこれ  
甘え。。。。脇つて甘くなるもんなのかあ。。。。  
全然臭くないし。。。。アイドルつてすげえ。。。。♡



「えっ……?」

だらぁ…

「オ  
ア  
ミ」

「……」



「なっ……えっ……えっ……ツ……ツ……!!?」





『。。。ハダカ。。。？』

『脇。。。濡れて。。。ツツツ』

だらら





「やめっ……撮らないでッ……!!」

「志希ちゃんやんのハダカ撮っちゃダメエツ!!」

パニャ

パニャ



「へへへへWらしいのわ？  
俺に抵抗したらお、お前の恥ずかしら写真  
全部ネットにアップするぜ？」

「お、お前が寝てる間にもう  
何枚も撮ってるんだからな？W  
今すぐアップしてもいいんだぞ？」

「ぞ、ぞうなったらもうアイドルとしての  
一ノ瀬志希は終わりだなあ？  
LiPPPSのメンバーにも  
事務所にも迷惑かかるだろうなあ？なあ！！」

（高圧的に。。。自信満々に。。。  
この場の主導権を俺が握る。。。ツ！！）

体が動かない……

さっきあのクスリをたくさん吸っちゃったから……

「人とお願ひする時は  
言ひ方つてもんがあるだろツ!!」

「お願いします……」

ネットにアップするのだけは……

やめて……ください……」

（ヒョーンと……怖いッ……）

♡♡…

♡♡…





（お、おかしい……このヒトだって……  
これが世に出れば逮捕されるのに  
なんでこんなに堂々として……）

（もう失うものがない  
自爆覚悟のオタクの犯行……!?  
下手に抵抗したらコロされるかも……）

プロデューサー……助けて……）

お。。。。思いのほか上手く。。。。(???)  
お。。。。なんだ。。。。

クッ

。。。。こんなに他人を怒鳴りつけたの人生で初めてだけど。。。。  
。。。。なんだ。。。。アイドルだからって天才だからって  
。。。。一ノ瀬志希だからって男の俺が  
。。。。本気で怒鳴っちゃうんじゃないかねえか。。。。



（なんだ。。。女って。。。  
簡単じゃねえか。。。w）



「ひっ……嫌っ……  
あたしのヴァギナツ……  
見られてツ……」

「初めてなのに……  
プロデューサー以外に  
見られるなんてっ……」

「な、中々いい体  
してるじゃねえか」

「お……おふっ……  
すっげ……マンロ……マンロ……無毛……パイパン……  
これがあの二ノ瀬志希のマンロ……  
さつきまでパンティー越しに触ってた生殖穴……」

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

（このヒト…  
さつきからペニスを露出させて…  
しかも…ポツキしてて…  
間違いないくへんタイ…）

ごっくっ…



わあ  
ぢぢ

（なにより…クサイ…ツ  
強烈なオスの性フェロモン…  
ずつと嗅いでるとおかしくなりそう）

「よ、よ〜しじやあ次は志希の  
ツルツルマンコ撮るからな〜W  
よ〜く笑えよ〜」

（また写真撮られて…イヤッ…  
これ以上はホントにダメなのにい…）

（ダメ…  
まだ体動かせないッ…）





菜えっ！

「にゃ……にゃはは……」

「いいぞ」  
「やっぱりアイドルは  
笑顔だからなあ……」

がる

がる…

「今は従わなきや……  
何されるかわからないから……」

パニャ

パニャ

「……………」

「あたしってこんな情けない人間だったんだ……」

「こんな見ず知らずの気持ち悪いオタクに拉致されて……脅迫されてされるがまま従っちゃう……そっか……あたしもアイドルっていう後ろ盾がなかったらただのヒト、一人の弱いオシナ……だったんだ」

「……………」



（これ、本気でドビっつてるじゃねえか…  
体も声も震えてるし…  
いつもは飄々としたキャラでライブとか映像だと  
スカした顔でなんでもさらっつとこなすのに  
今は弱弱しくて全然覇気がねえw）

（もうどうせ後戻りできねえんだ…  
いけるとこまでいっちまうぞ…?!  
そうだ、これは38年クソみてえな人生を  
耐え抜いた俺へのご褒美なんだ…!!）



「二ノ瀬志希の裸……一ノ瀬志希のおっぱい……乳首……  
一ノ瀬志希のスジマンコ……一ノ瀬志希のアナル……シワまで  
ぜんぶ丸見え……この世で俺だけが見てるこの景色……」

「ぎやっ」

「挿入れてえよ……」

「あの二ノ瀬志希で童貞卒業……40年近く温めた……  
ソープに行っても嬢に本番を拒否された俺の童貞を……  
ずっと画面越しに見てきたアイドルで卒業できるッ……!!」

「お、おいおいおい濡れてるぞお、マンコ♪  
本当は感じてるんだろ？なあ？なあ？」

（すげえ…ソープのズバアの  
マンコとは全然違い…）

「……っ」

ぐん

かああああ

（こんな男にヴァギナを触られて  
あたしコーフィンしてるの…？  
違う、これはヒトの生理現象で…）

ぬち…

「お、オナニーとかかするのがあるのかあ？  
あ、アイドルでも…」

「.....」

「答えるって!!  
写真アップされたいのかアツ!?!」



「……………したことは……………あるけど……………」

「らひひっW  
アイドルでもそういういらっや  
するんだなあW頻度は？  
週に何回するんだ？  
人生で一回しかしたことはないです  
なんて言うんじやねえよなあ？」

「……………」

「正直に言えよ？」

ポーン……………」

「週に3回から……………」

「は……………？聞いっえねえぞオ！！」



「週に3回くらい……やっています……」

「いひひひひひひひひひひ」

「なんだ今をときめく超多忙アイドルでも週に3回もオナつてるってコトでは暇さえあればオナつてるってコトだよな?! なんだ、オナ猿じゃねえかWWW」

「俺と同じでW」

とろお

「……ツツ」

「飛び級天才インテリアアイドルが聞いて呆れるなあW」

「やべエエ。。。たまんねエエ。。。」

「いつもはバイト先の薄っぺらな女子大生にすら罵倒されてる俺が俺の歳の半分も生きてねえクセに俺の何十倍も稼いでる全盛アイドルを全裸に剥いて言葉攻めしてる。。。世界の王になつた気分だ。。。気持ち良すぎるぜえエ。。。」

「(コ)のまままだとチンコバキバキ過ぎてマンコ触ってるだけで射精ちまう。。。」



「ニヤ」

「ニヤ」



「おねがいやめて……  
あたしはじめてで……  
好きなヒトも……」

「挿入れる……挿入れる……」

「(一ノ瀬志希のマンコと俺のチンコが直に触れて……ッ  
ヤベッ……早く挿入れないと射精るぞこれ……ッ)」

ズリ

ズリ

ピクッ

ピク……

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



（まじり。。。ちんちんイッ♡）  
熱くっなるなるなるチンポに絡んでっスヨシ！！

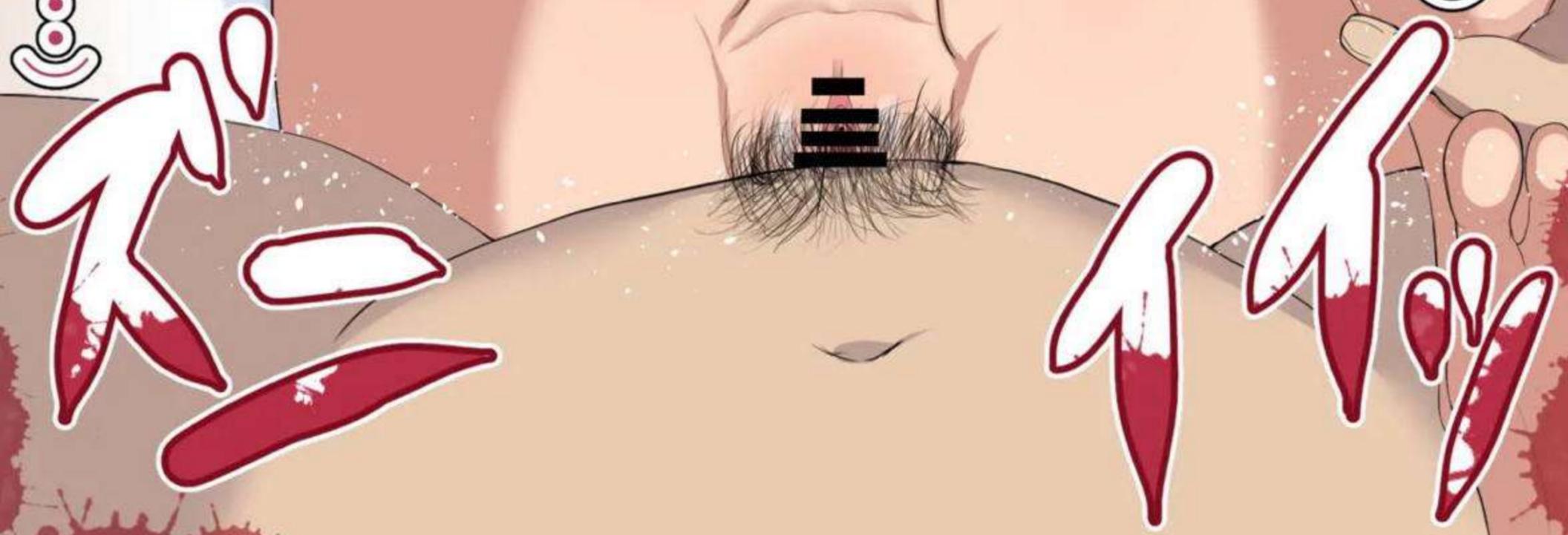
あ...

ぴく...

ぴく...

っっっっ

（こんな男にレイプされて。。。）  
（こんな男に尻で。。。）  
（こんな男にレイプされて。。。）





■■■■■■■■■■

「あッヤッ...  
射精するッ...」

ゲル  
ゲル  
ゲル

ゲル  
ゲル  
ゲル

ゲル  
ゲル  
ゲル  
ゲル  
ゲル

びく

びくっ

■■■■



とぽん  
とぽん

[Redacted]

「いんや...でしよ...」

ぐ  
ぽ...

ひん  
ひん

「.....えっ?」

あ、たし、今日危険目……えっ……  
膣内に出しちやったら  
デキちやう……けど……あれ……?

「……あは……んや……はは……」



（気持……ちいいイ〜ツ……）

あの一ノ瀬志希の処女を奪って……

膣内射精……ああ……ヤベエ……

気持ち良すぎて射精とまんねえ……♡）

（決めた……産ます!!俺の子供をこの女に……）

一ノ瀬志希の卵子を俺の精子で受精させるら……

日本中のオタクが羨んで仕方ない若くてピチピチの

現役アイドルの子宮を俺のモノにしてやるツ……!!）

三

(((まあもう受精してるかももしれねえけどな。。。)))

# 数時間後

—

**AM7:00**

（それから……男の性欲は尽きず、  
あたしは夜通し犯された。  
もちろんスペルマは全部膣内に射精された）

（明け方になるとクスリの効き目も切れた  
……はずなのに体はピクリとも動かなかった）



（せっかくアイドルとして  
うまくやってけそって思ってたのに  
……ごめんね、プロデューサー……）

「お、おお♡  
俺らの愛の結晶が漏れ出してきてるぞ♡  
志希のスケベなマンコから♪」

（あたしもうダメっぽい……）

グ

ポォ...

「人生で一番射精したぜ……」

それにしても……セックス……なんつー気持ちよさだよ……」

最初のほうはマジで挿入れた瞬間に射精してたぞ……」

後半やっつと慣れてピストンでできるようになったが……」

合計何回中出ししたか分かんねえ……これもうデキてるんじゃないやねえか？(W)

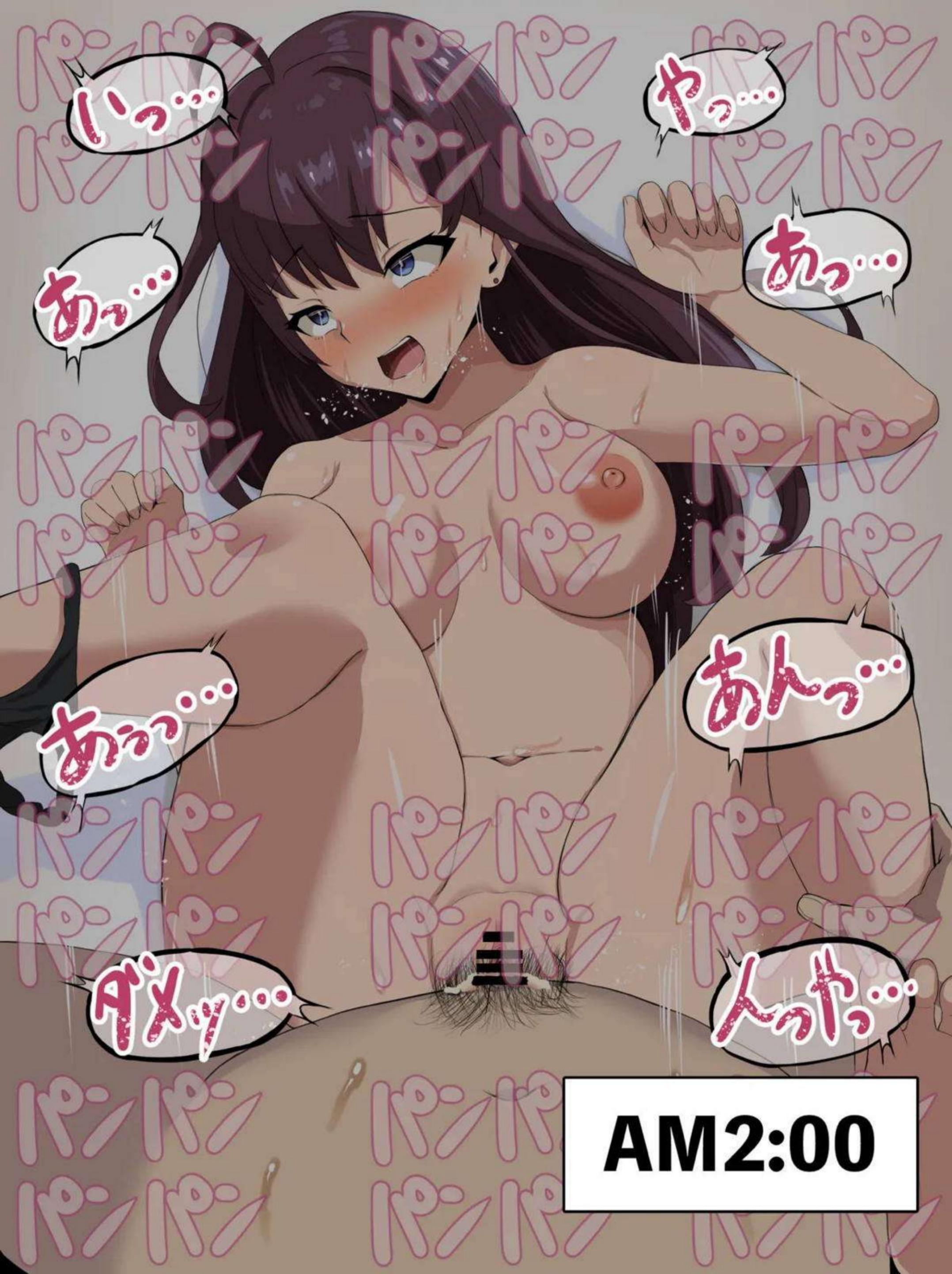
「それにしても志希い♡お前処女だったクセして全然痛がらねえし

後半めっちゃくちや感じてたよな？俺とのセックスを愉しんでたよな？

俺のチンコで突かれるたびにアンアン喘ぎ声がうるさかったもんなあ……♡

今まで見たことないような下品な表情で潮まで吹いてたもんなア!!」

「……」



いっ...

やっ...

あっ...

あっ...

あっ...

あん...

アッ...

んっ...

**AM 2:00**



あぁぁぁ...

い...くらっ!

あぁぁ

う...あぁ

ギャーッ ギャーッ ムッ ムッ あぁぁ...

ん...あぁ

**AM4:00**



**AM6:00**

「俺ら体と遺伝子の相性がいいんだろっなあ？  
キヌも抵抗なく受け入れたもんなア♡♡♡♡」

「にしても志希の唇。。。口内。。。  
唾液。。。甘くていい匂いで美味かったなア♪  
まあもういつでも味わえるんだが。。。♡」

「あ。。。あ。。。あ。。。っ」







アザビバビ

下あぁい



ん...ん...ん...

ん...ん...ん...

**AM3:00**



だらあ...

**AM5:00**



んちゅ♡

んちゅ

んっ♡  
♡  
♡  
♡

んちゅ

おろろ

んちゅ

んちゅ♡

んちゅ

んちゅ

んちゅ

んちゅ♡

（そうっ…あたしコーフンしちゃったの…  
プロデューサーには絶対見せられないような下品な表情かしちゃった  
気持ち悪くて臭いヘンタイのこの男に身も心も汚されて  
無理やり犯されて…処女もファーストキスも全部奪われて…）

（体臭も口臭も生理的に受け付けなかったのに…  
流されて…何度もキスされてベロ入れられて…  
たった一晩で気にならなくなっちゃった…）

にゃはは…

（サイテーだよね…あたしサイテーなオンナだった…  
レイプなのに、愛なんかないセックスだったのに  
初めてだったのに、コーフンして何度もイッちゃった…  
スケベでマゾでヘンタイなサイテーのオンナ…  
プロデューサーはそんなあたしには似合わないよね…）

じゃあね…プロデューサー…



数  
日  
後



（ベ先の女子大生……今回もキレ散らかしやがって……  
毎回毎回風呂に入っってこいって  
うるせえんだよ……俺の勝手だろぅがよ……）



（だけどあいつも俺が本気で怒鳴りつけて  
脅してヘメてやったら従順になるんだろぅな……W  
まああんな厚化粧の貧乳二重、俺のほうから願い下げたがなッ）

「……………クソが…………ツ」

（あーイライラする。。。が、まあいい。  
あんなドブスのババアに何を言われようかと  
へこへこしておいてやるよ。。。）

（俺にはあんなブスより千倍マシな  
肉便器がいるからな。。。♪）



ガッ!

イチヤ

「おっ、帰ったぞ!!」







カッ

カッ

カッ

カッ

カ

ポッ

カッ

カッ

「お、おしっこっ…  
もうムリなの…ガマンできないうっ…」

「あ？言い方がなあってねえな…  
教えたはずだよな？俺と話すときは…」

がっ…

がっ…



「……お……お兄様……あたしが  
おしっこするとこころ見てて……  
ください……」

「なんで？」

「一人じゃおしっこできないのお……」

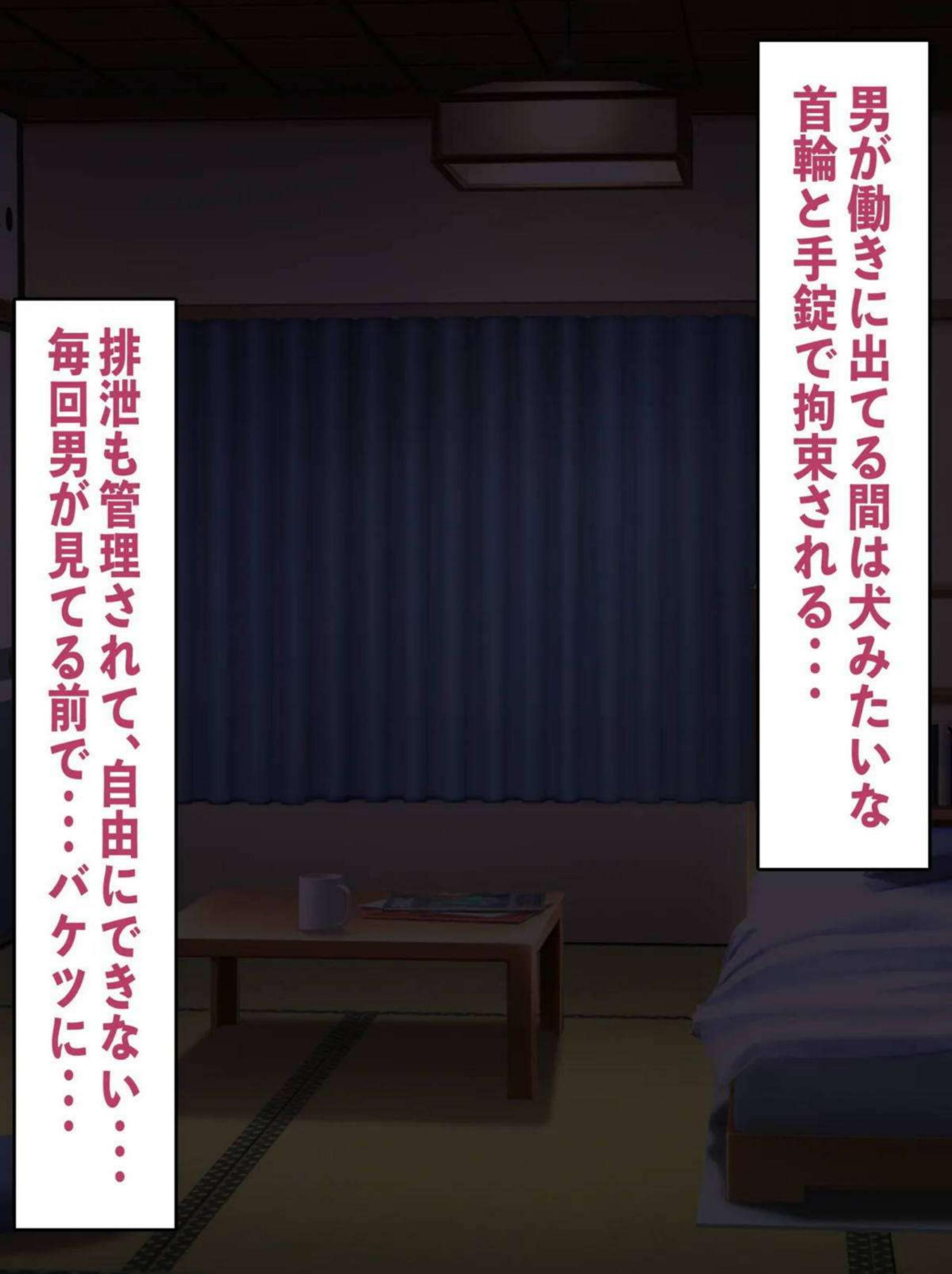
「いひひっW  
しかたねえなあ♪」





この男に監禁されてからもう数日――  
最初の2日ほどは説得を試みたけど……  
もう諦めちゃった。

男はあたしに自分のことを「お兄様」って  
呼ばせることに執着してる。フェチらしいけど……  
呼んでるうちに慣れていってる自分がこわい……



男が働きに出てる間は犬みたいな  
首輪と手錠で拘束される……

排泄も管理されて、自由にできな……  
毎回男が見てる前で……バケツに……

「ほら、バケツだぞ」

「あ、ありがどうございします。。。お兄様。。。」

「は、恥ずかしい。。。けどこのポーズじやなきや怒られちゃうから。。。」

ぷる

ぷる...

「おらおら乳首ペンペン  
じゃねーかWド変態だなあ♪  
シヨンペン見られるのが  
そんなに気持ちいいか？」

（ああ…あたし…ヘンタイなお…  
おしっこ出るところお兄様に見られてコーワシしてるのお…）

「…でぞうらうらう…」





ぶるるっ

...

っ

ちよ33

3333



「今日もよく出たなあW」

「ん……あ……あ……」

「今日はウンコはいいの？W」

「は、はい……」

「今日はおしっこだけで……」

も

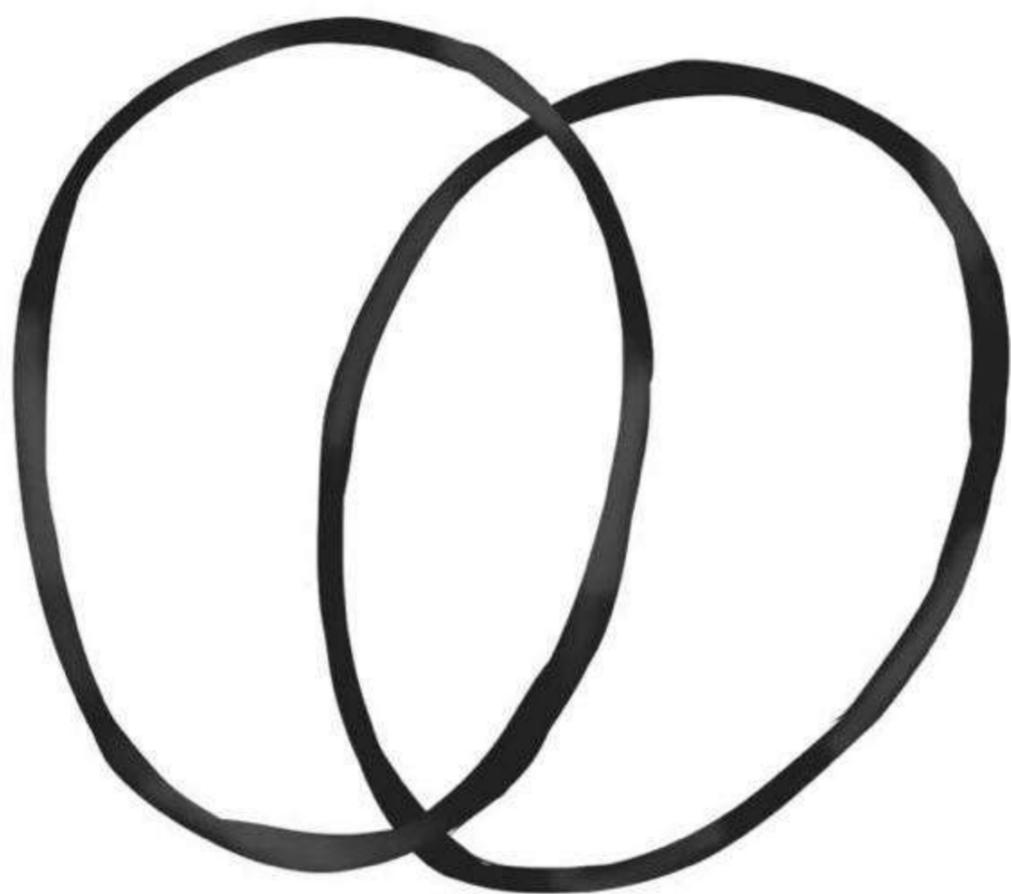
わあ……





もう見られながら  
おしっこするのも慣れちゃった……

「そっ、だ、ほら  
ヘアゴム買ってきたから  
昨日俺が言った通りにしろ」



「は、はい……お兄様……」

（このヘアゴム……外の匂いだ……久々に嗅いだなあ  
この部屋のものは全部お兄様の臭いだから……）

（そっかしいえば今  
研究に没頭してた時より  
お風呂入ってないなあ……  
この部屋ってお風呂ないし……）

シユル

プー

シユル

（あたしの体ももうほとんど  
お兄様の臭いと同じになっっちゃった……  
しかもそれがそんなに苦じやない……  
にやはは……プロデューサーの  
匂いってどんなのだったっけ……）

「おおー！そうつつ！！  
やつぱり女はツイメンテールが  
一番だよなあ！！」

「……………」

「よし、じゃあオナニーしろ」

「えっ？」

「俺今仕事終わりで疲れてるからよお、  
ドエロくオナつて俺のチンコ勃たせる、ほら  
ゴッコに来る前は週3でやってたんだろ？」

「……………」

「オナニー……久しぶり……  
ここにきてからは一回もしてないから……  
する必要がないというか……」

「黙ってやるんじゃないぞ！  
俺を興奮させるんだよ！！」

くちゅ……っ





んんんんんん

んっ

んん

んん

んんんんんん

あっ

んん

Y3

「そんななんじや足りねえぞ!!  
ずっと撮りためてるお前の変態スケベ写真と動画  
全部ネットにアップしてほしいのか!?!」

「い、いや……です……」

ビクッ

「だっただらもっとな俺を

悦ばせるオナニーをしる!!」

「……は……い……」



悦ばせる。。。)

お兄様を悦ばせる。。。)

ちゅ。。。

==





●  
●  
●

んっ

んっ

んっ...お兄様...

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

三





「いひひひWまた潮吹きやがって…  
まあいいだろう俺のチンコを  
めっちゃくちやほしいのは  
よ〜く伝わってきたしな♪」

はあ

ビクッ

はあ

「オナニーでこんな感じるなんて初めてえ…  
お兄様の顔を想像した瞬間頭がバカになっ  
て手が止まらなくなっでえ…」

はあ

はあ

ビクッ

⑥ガマン…すごくガマンしてたのに…  
あたしホントにお兄様のことスキに…  
なっっちゃううう…お兄様の臭いもフェロモンも  
\*どんどんハマって…トリップしちゃうのお…  
\*ストックホルム症候群だって分かってるのに…  
志希ちゃんの女のブブンが止められない…♡

ぽわわわわわわ

ハヒュー

ハヒュー

わわ

ん

※誘拐や監禁などにより拘束下にある被害者が、  
加害者と時間や場所を共有することによって、  
加害者に好意や共感、さらには信頼や結束の感情まで抱くようになる現象





このアパートの近隣は誰も住んでないらしい。今まで物音の一つも聞いてないから本当っぽい。ちよっとくらい大きな音や声を出してもお兄様は平気な顔をしてる。

ドクン

だからあたしたちは毎夜毎晩ケモノみたいな声をあげながらセックスをしている。避妊具なんて一切つけない。文字通りケモノみたいな子孫を残すためのセックス。そして今からも。。

ドクン





あっ♡

志希ちゃん  
この体位すぎる♡♡♡♡♡

あっ♡

「おっおっおっ」

「は、はいっ」

ドキッ

「お前まだコンコンから逃げて  
アイドルに復帰したいたいか？」

「えっ……」

ピタッ

……



ズ  
イツ

ん  
ん

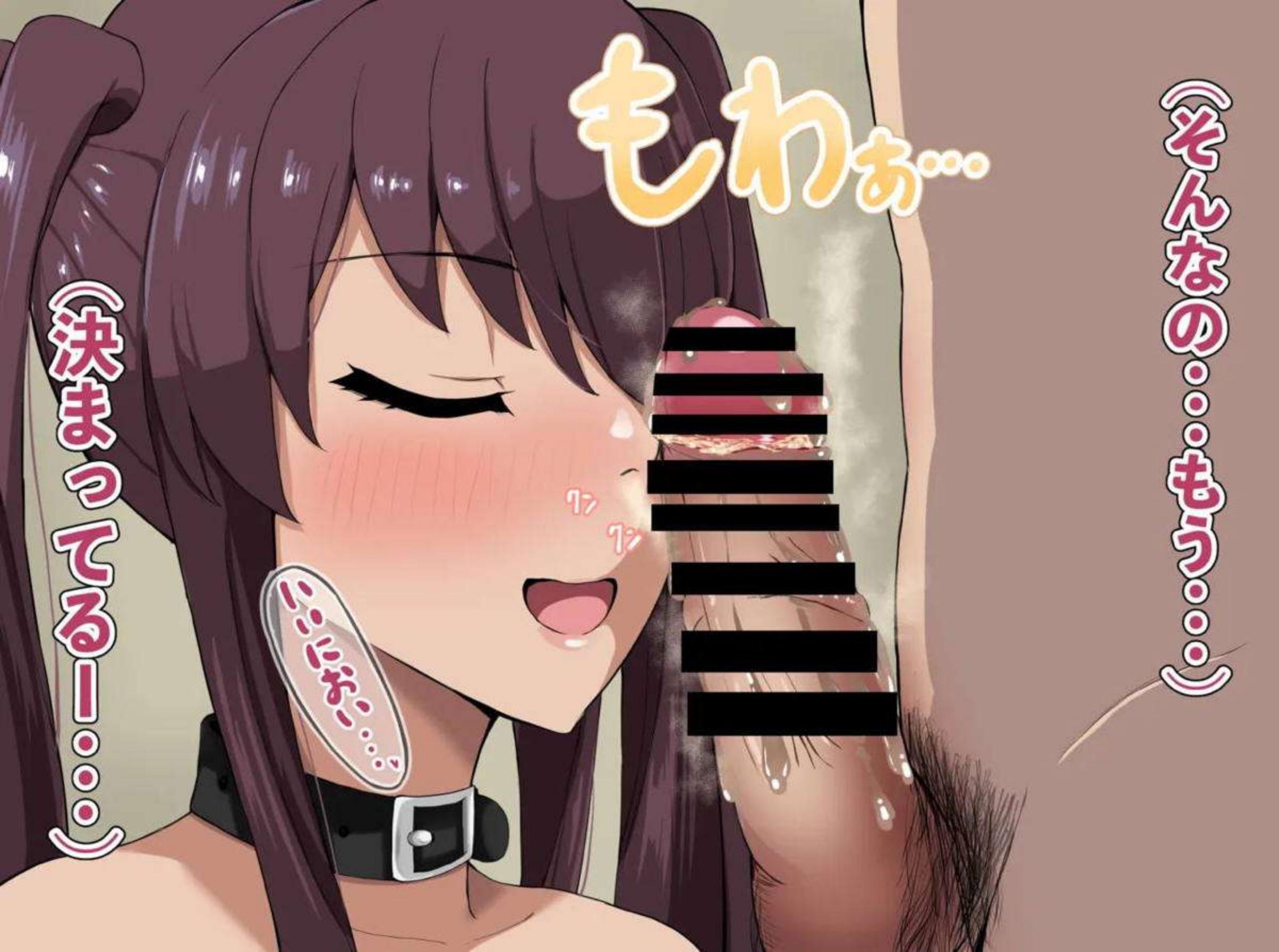
（お兄様のペニスツ……やっぱり大きいっ……それに  
あたしの愛液とお兄様のスperlマの臭い混ぜってツ……）

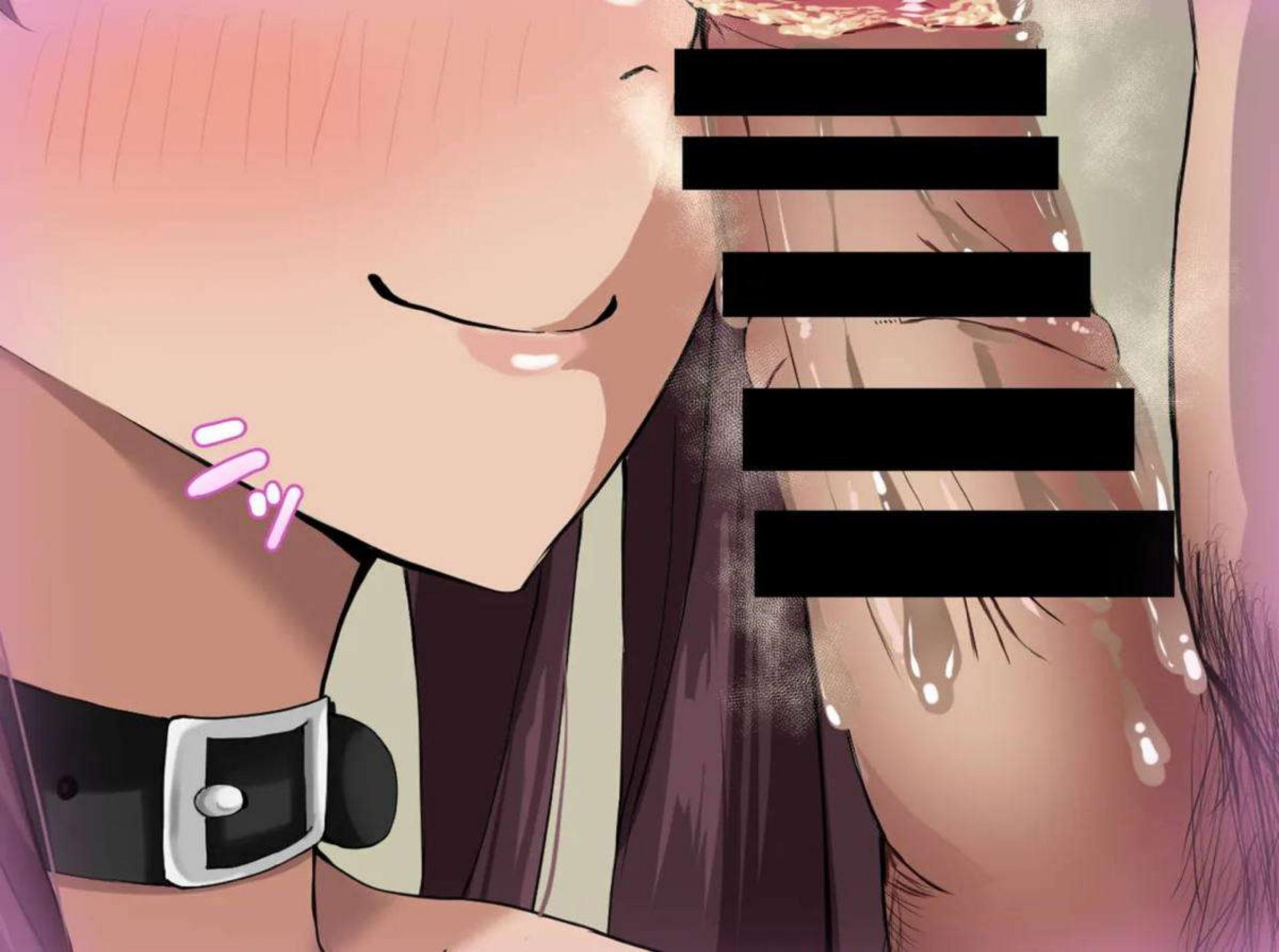
「アイドル活動と俺…  
どっちが大事か!! 選べ!! 志希!!」

もわぁ...

決まってるー...

そんなの...もう...





「お兄様……お兄様お兄様っ」

「もうアイドルにキョーミンないのっ!!  
お兄様だけでいいのおおおっ♡♡♡」

ニパア♡



「あたしとお兄様の  
子<sup>生</sup>作り<sup>ハメ</sup>実験<sup>ス</sup>続けてええええっ♡」

■■■■■■■■■■  
■■■■■■■■■■  
■■■■■■■■■■  
■■■■■■■■■■  
■■■■■■■■■■  
■■■■■■■■■■  
■■■■■■■■■■



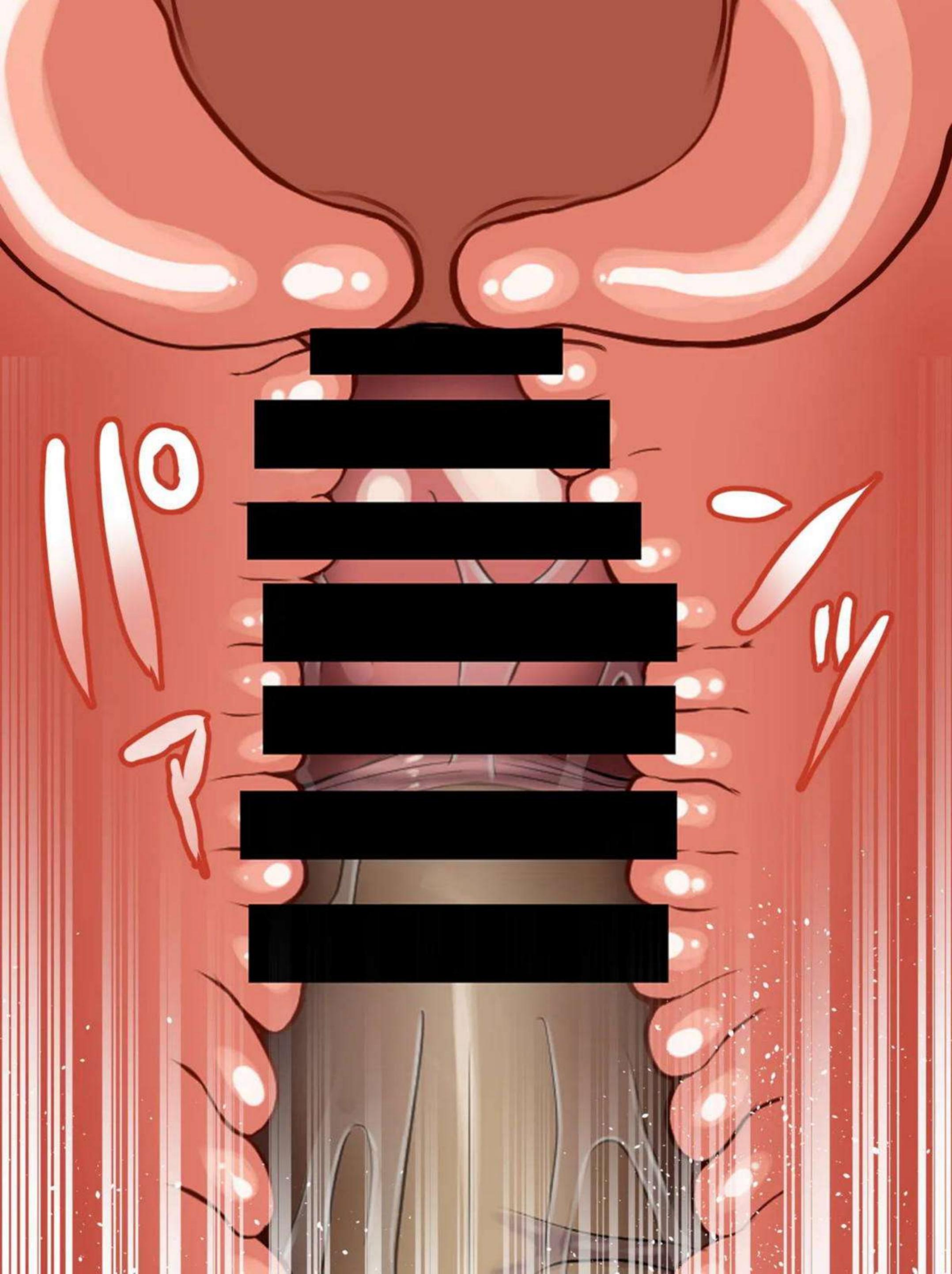
（あたし……）

（いつの間にかお兄様に……  
夢中になっちゃってた……っ♡）

（あたしを恥辱的に  
辱めて貶めてくれる……  
臭いも行動も刺激的な  
お兄様が……大好きっ♡）

(いひひひひひひイイツWWW  
全部前に読んだエロ漫画通りだ  
いったぜええツツツ♡♡♡)

「ドじゃあお望みの通り  
ガチガチチンコマンコに  
ハマてやるよおおツ♡」





「あっ♡膣奥う♡  
グリグリ突かれてええっ  
ダメツ志希ちゃんもう完全に  
バカになっっちゃう♡  
18年積み重ねてきた頭脳  
パーになっっちゃうううっ♡」

「あたしの一番のキョーミンはもう  
お兄様なののおおっ♡♡♡♡」





「お兄様の臭いが、フェロモンが、  
顔が、体が、遺伝子が…」

「一番あたしにビリビリくるのおおおっ♡♡♡♡♡」

うん♡

♡

■■■■■

う……ん……ぎ……！

（マン……）  
締め付け……ちゅ……

「げ、結婚するぞっ!! 志希っ!!  
お前はアイドル辞めて俺の……  
俺専用の肉便器妹妻になれツツ!!  
経歴も学歴も……  
全部俺のために棒に振って子袋になれエエツツ!!」

ちゅんちゅん



「にゃ……はいいいっ♡  
志希ちゃんはお兄様の  
肉便器妹妻になりゅううう♡♡♡♡」

「あたしの遺伝子……  
お兄様の遺伝子精子でたくさんませませ実験して  
いっぱい赤ちゃん産ませせてええっ♡♡♡♡」

「射精……んんん……」





が  
ゅ

う  
う  
う  
う



びゅん

るるるるる

びゅん  
びゅん  
びゅん

びゅん

く……おっ

（……処女奪った時より……  
射精たかもしれねえ……）

（まだまだまたチンコから精液  
絞り出すようにしてやがる……っ（W）



それから夜が明けけるまで  
俺たちは繋がりに続けた

**挿入時間**

7時間42分

**絶頂回数**

31回

**射精回数(全て中出し)**

14回

**受精・済**

「それにしても……志希、お前  
ここに來てから結構経つが  
全然話題にならねえな  
今をときめくアイドルなんだから少しくらい  
ニュースになっただってよさそうだよ」

「ん〜、志希ちゃんよく周りに黙って失踪してたからあ……  
多分他のアイドルもプロデューサーも  
この程度ならいつものことだと思ってるのお♡」

「お前の失踪エピソードは有名だったが大  
マジだったのかW」

もわぁ

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

「だけどさすがにこれ以上行方不明だと  
大事になる可能性あるからな……  
明日にでも帰れ、そして事務所に顔出してっす」

「えっ、ダーリンあたしを捨てるの……？」

「なんだダーリンって、まあいいけどよ。  
それに捨ててねえよ、事務所にアイドル引退するって  
伝えてからまたうちに来い♡そしたら籍入れてやる」

「なんだダーリンって、まあいいけどよ。  
それに捨ててねえよ、事務所にアイドル引退するって  
伝えてからまたうちに来い♡そしたら籍入れてやる」

「ダーリンしゅきっ♡♡」

「いひひっ♡俺も好きだぜえ♡  
いっぱい作るうなあ、俺らの子でっも…」

ちゅっ♡

「うんっ♡♡♡」

あゝさわさわもよおしてきたな…

「おい志希、口開ける」

「えっ？」

「いい心がけだ！  
おら、俺のシヨ  
ンブんだ!!飲めツ!!」

ジョ  
ロ  
ロ  
ツ

ビ  
グ  
ク  
ツ  
!



（急に何かと思ったたら…  
おしっこを飲ませてくるなんて…  
ヘンタイすぎ〜♡）

ゴホ  
ゴホッ

（何も言わず受け入れちゃう  
あたしもヘンタイなんだけど〜♡）

ダーリンのおしゅるっ♡  
あったかくていいフレーズ♡

とくっ

んぐっ

とくっ

ぐん

味も濃くてスパイシ♡  
フクザツなエッセンスがクセになりそう♡  
飲んでるだけでトリップしちゃう♡♡♡





♡

ポポポ

んくんく

ポポポ

（あっ……もう終わりい……？  
もっとな飲みたかったのい〜♡）

ちよろろ ころろ…

んえ〜

（ぷっ……Wなんだこのブス顔……W  
アイドルがしていい顔じゃねえぞWWW）





じゅるん

んんん...

「あたしダーリンのおしっこクセになっちゃったかもー♡」

「いひひひW

ちやんと全部飲み込んだなあ♡

びやあ次出すときも飲ませてやるよー」

「うん♡いつかおしっこフレーバーだけでダーリンの健康状態把握できるといいなねー♡」

「いひひひW

人間ドックいらさずだなあー」

「だから精液スペルマもおしっこもま〜いいにち  
飲ませせてねっ♡」

「志希ちゃんを奥ツッコさんコソにしたんだから  
毎日シゲキ的エッチでヘンタイな実験  
た〜くさんしてよね♪ダーリン♡♡♡」

**10  
力  
月  
後**  
|

消えた一ノ瀬志希  
その真

LiPPSのメンバーノ瀬心希さんが  
電撃脱退&電撃引退してから10カ月。  
一部では違法薬物の使用が  
あったのではないからという声がありますが、  
同じLiPPSのメンバーの  
宮本フレデリカさんはどう思いますか？

LiPPSメンバー  
宮本フレデリカさん

フレちゃんはそう思いません…

消えた一ノ瀬志希  
その真相は...

「いやあ、宮本フレデリカは可愛いなあ!!  
やっぱ現役のアイドルは違えなあ」



LiPPSメンバー  
宮本フレデリカさん

「テレビのフレちゃんのことばかり  
見てないでキミの奥さんのこと見てよお」



も

わあ

「あ〜、お前の名前なんだっけ」

「も〜ダーリン！  
いつもそれ聞くらう♡♡」

テッ

ゴ

「イケメンで優しくて頭のいい  
徹人ダーリンの肉便器妹妻の  
内田志希だよお♡♡」

「そっかそっか」

「む〜、前まではこれで  
喜んでくれたのにい……」

（あ〜宮本フレデリカとセックスしてえな……）

ムラ  
ムラ



「あ〜ムラっいできた。。。  
おいセツクスするぞ、メス豚」

あっ

ぽっ

「にやはっ♡  
赤ちゃん驚かせないように  
ゆっくりね♡」

だらっ♡



真正ドSだった夫・内田徹人と  
真正ドMだった妻・内田志希は  
これからも子宝に恵まれ、  
なんだからんだうまくやっていくのだったー



HAPPY END